

4 4 粟谷川

4 5 種川

4 6 柳谷川 小茅川 大杉川

44) 粟谷川

1.

河川状況。礫の転がる自然の流れである。



45) 種川

2.

護岸工は施工してあるが、草が生える。
礫川で清流である。



種川



45)種川
3.
頭首工。h=1.5m
魚は遡上しにくく、
魚影もうすい。



45)種川
4.
頭首工。
h=0.5m×2段。
魚は少ない。



45)種川
5.
三面張工。魚の遡上
は不可能である。



45)種川
6.
頭首工 h=1.0mと
三面張河川。



45)種川
7.
護岸が整備され、魚
はいない。



45)種川
8.
風倒木の斜面崩壊。

43

43

43

45



44)栗谷川
9.
河川状況。自然状態
の礫川で清流である。



44)栗谷川
10.
滝 $h \approx 4\text{m}$ 。
岩脈に滝を形成して
いる。



44)栗谷川
11.
 $h = 1.5\text{m}$ 。手前に
石積のスロープがあ
り、山椒魚でものぼ
れる。



44)栗谷川
12.
 $h = 1.5\text{m}$ 。
魚道あり。



44)栗谷川
13.
 $h = 0.5\text{m} \times 2\text{段}$ 。
護岸は整備されてい
る。



46)柳谷川
14.
 $h = 1.0\text{m}$ 。床固め
工があり、魚の遡上
用いて難儀である。

栗谷川

43
43
43
45

46)柳谷川

15.

護岸整備し、礫川で
h=0.5mの頭首工
あり。上流に牧場あり。
魚もほとんどい
ない。



44)栗谷川

16.

河川状況。礫川で清
流である。ハヤ・ア
メゴ生息。



44)栗谷川

17.

同上。ホタル、山椒
魚も生息していよう。



46)小茅川

18.

床固工。h=2mで
魚の遡上は困難であ
る。



46)小茅川

19.

頭首工。h=1m。
昭和56年災以後、魚、
ホタル、山椒魚もい
なくなった。



46)小茅川

20.

頭首工。h=1.5m。
ホタルも小魚もいな
くなった。



柳谷川

山田川



46)小茅川
21.
頭首工。h = 2 m。
魚はいないが、魚の
遡上も困難である。



46)小茅川
22.
h = 1 m。
魚はいない。



46)小茅川
23.
砂防ダム。h = 7 m



46)小茅川
24.
礫川で自然流を保っ
ているが、魚・山椒
魚等はいない。植林
地で餌もない。



44)粟谷川
25.
頭首工。h = 1 m。
清流である。



44)粟谷川
26.
砂防ダム。h = 5 m
魚道あり。



44)栗谷川
27.
支川。自然流であるが、魚は見えない。山椒魚が期待されるが、餌は無さそうである。



44)栗谷川
28.
頭首工。h = 1.5m。



46)大杉川
29.
自然流でウグイ・アマゴが生息している。

46)大杉川
30.
河川状況。生息場所を考えているが、山椒魚の確認されたことはない。



46)大杉川
31.
自然流。



44)栗谷川
32.
砂防ダム。h = 8 m
魚の移動不可能である。





44)粟谷川

33.

自然流。アメゴは放流するが、この2~3年山椒魚は見たことが無いと云う人ばかりである。



44)粟谷川

34.

自然流である。昭和56年災害以前は道路で山椒魚をよく見かけたが、復旧工事以後ほとんど見かけなくなった。



44)粟谷川

35.

自然流である。夜ぼりでも山椒魚はほとんど見なくなったとのことである。魚も激減したとのこと。